

おひさま ニュース

2016

1 月号
新年号

〒294-0014 千葉県館山市山本1155番地 TEL:0470-25-5111 <http://www.awairyo.jp/>

発行責任者：水谷正彦 編集責任者：根本達也

ピンチは チャンス

社会福祉法人太陽会
理事長 亀田信介



明けましておめでとうございます。

安房地域医療センターは委譲後、新救急棟建設や様々な高額機器等への投資を行ったため経営的には大変でした。しかし救急医療をはじめ、提供する医療サービスの充実により、地域からの信頼も徐々に向上してきたと思います。入院については、149床という制限もあり稼働率の向上には限度がありますが、外来患者数に関しては、毎年増加し続けて参りました。経営的にも今後は償却額が徐々に減少し、改善されてくることが期待されます。

しかし人事的課題は常時存在し、最も大きな経営リスクです。看護師については2017年3月に安房医療福祉専門学校の1期生が卒業を迎え、その後は安定的な人材確保が可能になると考えています。一方、医師については2017年にスタートする専攻医制度により、大きな影響を受けると考えられます。新専攻医制度については日本専門医機構や各学会の作業・調整が遅れ、未だにはっきりしない部分が多々存在し、どのような問題が発生するのかを現時点で予想することは困難ですが、3月までには日本専門医機構の承認を得たプログラムを作らなければなりません。

新専攻医制度の特徴は、大学や学会主導で作られてきたため、診療科ごとに基幹病院

に求められる指導医の配置や症例数、プログラムのコンセプト等にばらつきがあり、時に合理性に乏しい要求事項も存在します。一方で、共通事項として小規模やへき地の医療機関を含む複数の医療機関が連携したプログラムでなければ認められないことになっています。基本的には3年間のうち1年間以上は基幹病院以外の連携医療機関で研修する必要があります。安房地域医療センターは基幹型病院になることが困難と考えられるため、連携病院として活動することになります。具体的には亀田メディカルセンターの連携施設とし、専攻医に多くの症例と質の高い指導を提供し、基幹病院と“give and take (ギブ&テイク)”の関係を築き医師の安定確保と医療の質の向上を目指します。

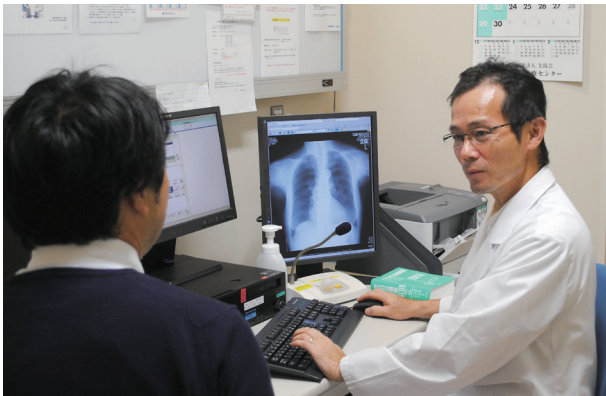
ほとんどの中小病院は、今回の新専攻医制度によって医師が大学に集中するため、医師確保がこれまで以上に困難になるとネガティブに捉えています。しかし安房地域医療センターにとっては、亀田メディカルセンターと連携し、専攻医にとって日本一魅力的なプログラムを創るチャンスだと考えます。まさに「ピンチはチャンス」。あらゆる知恵を結集して新たなチャレンジを成功させるため、職員一丸となって頑張ります。



2016年

診療科のご紹介	総合診療科	消化器科	循環器科	腎臓内科	糖尿病甲状腺 内分泌内科	神経内科
	小児科	リウマチ・膠原病・ アレルギー内科	膠原病内科	呼吸器科	皮膚科	腫瘍内科
	外科	肛門科	整形外科	スポーツ整形	麻酔科	ペインクリニック
	救急科	透析科	泌尿器科	乳腺科	放射線科	リハビリ テーション科

腎臓内科



「腎臓内科」や「腎臓病」と聞いてもピンとこない方が多いと思います。また、腎臓内科か泌尿器科のどちらを受診するか迷ってしまう方もいらっしゃるのではないのでしょうか。一般的に「腎臓内科」は腎臓を内科的に、「泌尿器科」は尿路系や腎臓を外科的に対処する病気(腫瘍・結石など)を診ます。

当院の腎臓内科では、主に腎機能障害や高血圧の治療を行っています。亀田クリニックとの連携を保ち、急速に進行する疾患については適切かつ速やかに紹介をしています。また、腎不全の程度によって透析療法が必要となる場合がありますが、以前は亀田総合病院に入院してからの導入でした。現在は当院の外来で全て行うことが出来るようになったため、

患者さまへの利便性が高まりました。

今後は腎機能の悪化を予防するために、館山市内の医療従事者と共に慢性腎臓病の啓発活動を展開していきたいと考えています。また、これからは安房地域での透析医療ネットワークも重要となってきますので、亀田総合病院や亀田ファミリークリニック館山の透析センターとの連携により、透析医療を今まで以上に充実させるためのネットワークづくりをしていきたいと思っています。

身近で、総合検診などでたんぱく尿や腎機能が低下していると指摘された方、手足や顔がむくんでいる・尿量が増えたり減ってきたなどの自覚症状がある方は一度外来へいらっしやいませんか。腎臓は症状が出ない沈黙の臓器といわれていますので、このような症状や不調を感じる前の受診をおすすめします。

[予約センター ☎0470-25-5011]

やまぐち けんじ
山口 憲児

透析副センター長
腎臓内科



日本透析学会 専門医

出身地 東京

趣味 硬式テニス

房総の好きなところ

気候、魚がうまい



薬剤室便り

お薬の保管方法

今回はお薬の保管方法のお話です。

- ①高温や湿気、光を避けて保管しましょう。
高温になりやすい暖房器具の近くや車の中には長時間置かないでください。
- ②錠剤、カプセル等を1回分ずつ1包にしたものは、温度や湿度などの影響をより受けやすいため十分に気を付けましょう。
- ③温度により変化する恐れのあるものは、

冷所保存の記載があります。その時は冷蔵庫で凍結を避けて保管しましょう。

- ④子供が大人の薬を誤って飲んでしまうという事故も起きています。子供の手の届くところには薬を置かないようにしましょう。



DMAT(ディーマツト)をご存知ですか? DMAT 業務調整員 太田麻衣子



DMATとは、医師、看護師、事務員で構成された4～5人のチームで、大地震や航空機・列車事故などに派遣され、救助現場での救急処置や被災病院の診療支援、病院間の患者搬送支援などを行う災害派遣医療チームです。戦後最大規模の災害と言われる阪神淡路大震災をきっかけに結成され、厚生労働省が定めた研修と訓練を受けて登録されたチームが、中越沖地震や東日本大震災、昨年では広島県の土砂災害や御嶽山噴火など多くの災害現場で活動しています。

当院では2013年に医師2名、看護師2名、事務員1名のDMATを結成しました。結成後は、災害に備えた訓練や研修などに参加し、昨年の茨城県豪雨災害に初めて派遣されました。

2015年9月10日、茨城県の鬼怒川が決壊し、常総市の広範囲が冠水しました。災害発生直後から茨城県のDMATが救助現場で救急処置や搬送などを開始していましたが、翌11日には冠水によって孤立した2つの病院避難のために東京都・神奈川県・埼玉県・千葉県全てのDMATが派遣されました。

当院DMATは、11日正午に被災地に到着し、救助された患者さまの転院先の病院を選定する任務につき、県内の病院との連絡や救助現場からの搬送調整などを行いました。ヘリコプターやボートによる救助活動を行う自衛隊・消防・警察などの機関とDMATが協力し合いながら、病院避難と搬送活動は夜を徹して行われ、2日間で約150名の患者さまの搬送を終了して12日夕刻には茨城県外のDMATは全て撤収しました。

千葉県でもいつ災害が起こるか分かりません。当院DMATは災害時にひとりでも多くの命を救うために、これからも活動していきます。



栄養コラム

ごぼうのポタージュ



管理栄養士 福田有里

食物繊維が野菜の中でも多く含まれるごぼうは、食物繊維が不足しがちな現代人にはありがたい(もってこい?ウレシイ?)野菜です。皮を剥かずに作ることで、ごぼうの風味が増して皮の部分に多く含まれている食物繊維も摂ることができます。調理師・鈴木さんのおすすめレシピです。



<材料> 5人分

- ごぼう …………… 400g
- 玉ねぎ …………… 200g
- バター …………… 40g
- 塩 …………… 8g
- 牛乳 …………… 600ml
- コンソメ …………… 10g

<作り方>

- ①ざく切りにした玉ねぎをバターで炒め、小さく切ったごぼうを加えて更に炒める
- ②牛乳と合わせ、ミキサーにかける
- ③鍋に戻し、コンソメで味を整えて出来上がり

♠左の写真は、撮影用にフォームドミルク(泡立てた牛乳)・黒胡椒・パセリ・ごぼうチップで飾ってあります



News

あなたの声で「手すり」がつけました

当院では院内 12 箇所に「あなたの声をお聞かせ下さい」というご意見箱を設置してあります。寄せられたご意見の中から患者さまの歩行の安全性を考え、「手すり」を 2 箇所増設致しました。場所は段差がわかりにくいとの意見が多かった**本館中央階段の 1 階部分**(写真 1)と、角度がきつく危ないとの意見があった**病院から第 2 駐車場に抜ける階段**(写真 2)です。

今後みなさまからの貴重なご意見を活用させて頂き、検討を重ねていきます。



写真 1

写真 2



レッツ!コグニサイズ

11 月 15 日(日)に地域住民との対話プロジェクト(AWA-café project)主催による、認知症の予防と運動をテーマにした教室が開催されました。医師による認知症講座やスタッフによる運動講座などが行われ、今回はコグニサイズを体験していただきました。コグニサイズとは、認知症予防の運動として最近注目を浴びている、国立長寿医療研究センターが開発した頭を使いながら体を動かす運動です。家族や友達と一緒にできると好評でした。汗をかけた後は、参加者



とスタッフでテーブルを囲み、出されたテーマや体験してみでの振り返りなどを語り合い、楽しく意見交換ができました。

編集後記

昨年は多くの災害にみまわれ、当院のDMATも初めての出勤となりました。私も、院内職員を対象とした、震度 6 の地震が起き大規模な災害が発生したという想定 of 訓練に参加しました。医師をはじめ色々な仕事の職員総勢約 80 名が参加した大がかりなもので、会議室の中に診察室や事務室に見立てた場所を作って、災

館野地区 ラジオ体操指導

10 月 30 日(金)、館山市館野地区の有志住民を対象にラジオ体操教室が開かれ、安房地域医療センターから理学療法士 2 名が指導員として参加しました。日頃、何気なく行われているラジオ体操を今一度見つめ直し、正しい運動方法を知って頂く取り組みです。当日は簡単に行える筋力検査も紹介されました。今回の教室を契機に、運動習慣の定着が期待されます。📻



おじいちゃん また来るね



9 月 14 日(月)に館山特別養護老人ホームの敬老祝賀会に、ひまわり

保育所の子供たちが参加しました。耳やしっぽを付けてタヌキに変身した子ども達は、少しドキドキしながら大勢の前で元気に歌やお遊戯を披露し、温かい拍手と笑顔をたくさん頂きました。最後に挨拶や握手をすると、みなさんとても喜んでくれました。頑張ったご褒美にたくさんのお土産を頂いて大満足のタヌキさん達でした。

同じ頃に保育所で行われたお月見会では、みんなで作ったお団子や美味しいおやつを食べたり、歌やお遊戯の披露など、楽しい行事で大忙しでした。



害時にどうやって患者さまの受け入れや医療の提供を行っていくかというシミュレーションでした。訓練中もかなりの混乱があり時間が過ぎるのも忘れてしまうくらいでした。みんなの結びつきが力を発揮することも実感できました。日頃の備えと訓練はとても大切です。今年は笑顔であふれる年になるといいですね。📝 じゅんべりい